



みことば生活への招き・詩篇 119 篇「タウ」に学ぶ

理事長 稲垣博史



詩篇 119 篇は詩篇の中で最も長い詩篇ですが、元のヘブル語ではいわゆるイロハ歌で、各節は最初の文字がヘブル語のアルファベット順に同じ文字で始まっています。また、各節にみことば、定め、みおしえ、さとし、戒め、おきてなど、神が啓示してくださったみことばを表すことばが出てきます。

「みことばの光」の毎号の表紙には 105 節「あなたのみことばは私の足のともしび 私の道の光です」が記されています。まさに「聖書同盟の詩篇」と言えるかもしれません。

その最後のまとまりがヘブル語アルファベットの最後タウという文字で始まる 169 節から 176 節ですが、ここにこの長い詩篇を書いた著者の思いが凝縮されているように感じられます。

この祈りのことばから、作者の生活の現実と信仰者としての思いを読み取ることができるように思います。

1. 苦しさの中の祈り

作者は 1 節では「私の叫びが御前に近づきますように」、2 節では、「私の切なる願いが御前に届きますように」と祈ります。神である主が遠くにおられる思いを感じ、苦しさを感じています。作者には神がその祈りの声に耳を傾けておられるようには感じていないようです。「私の叫び」や「切なる願い」になぜ、神は答えてくださらないのかと苦しんでいるように思います。

174 節では「主よ。私はあなたの救いを慕っています」と祈ります。「救い」は「罪からの救い」だ

けでなく、助け、救出、勝利、幸せなどの状態を示すことばです。主の助けを願い、祈り、待ち望んでいる作者の思いが迫ってきます。

そして、最後の 176 節では「私は滅びる羊のようにさまよっています。どうかこのしもべを捜してください」と祈っています。自分が今どこにいるのか分からない、どの方向に進めばいいのか分からないお手上げの状況なのです。

私たちが主を信じる生活の中で、このような思いを感じるものがしばしばです。

2. 主を賛美する生活を求める祈り

ところが、この詩人は、ただ苦しい状況から助け出してほしいという祈りだけでなく、自分の口で、神を賛美することができるようにしてほしいとも祈っています(171、172、175 節)。主を心から賛美することができる生活を送ることが願いなのです。でも、主が自分の祈りに応えて、すべての問題に解決をしてくださったら、主を賛美しますというのではありません。先の見えない状況の中でも主を賛美したいのです。

苦しい時に主を賛美する思いにはなかなかないものです。けれども、私たちがどういう状態であろうと、主は主であり続けられます。全存在を創造し、私たちを愛し、生きておられるお方に違いはありません。賛美する時に、私たちはそのような神に愛され、そのお方を愛して生きている者であることを確認し、自分が抱えているすべてのことをこの主に委ね、主に期待して忍耐をもって生きることがで

きるのではないのでしょうか。

3. 祈りと賛美を可能にするもの：主のみことば

作者は確かに試練の中に置かれていますが、ある意味で楽観的であるように感じます。そのような思いは、何と言っても「みことば」が与えられているからであるからではないのでしょうか。

この「タウ」のすべての節で「あなたのみことば」、「あなたのおきて」、「あなたの戒め」、「あなたのみおしえ」、「あなたのさばき」、「あなたの仰せ」という表現があります。主が人に明らかにしてくださった主のことばこそが、主ご自身のお考えがいかなるものかを理解させます。主は彼を必ずこの状況から救い出してくださいます。主は自分の過ちを教え、あるべき姿を教えてくださいます。神からの語りかけ、その記録が確かにあり、その「みことば」が彼の日々の様々な課題にぶつかる中で、方向を示し、拠り所となっているということです。彼の祈りは空を打つようなものではないのです。確かに「みことば」によって、自分の神がどういうお方であり、自分が何をしたらいいのか、どのように生き

たらいいのかを学び、教えられ、日々を過ごすことができるという安心感が詩人の心底に流れているように感じます。この作者が苦しみの中で、どうしていいかわからない状況の中で、祈りを聞いてくださるお方がいること、そして主を賛美することこそ、自分の生活になくてならないことをどうして知ることができたのか。それは主なる神の啓示としてのみことばがあるからです。作者もよくみことばに親しんでいた人に違いありません。自分が抱えている問題がすべて解決しているわけではないでしょう。羊のようにさまよう日々であるのでしょう。しかし、絶望はしないのです。主のみことばがあるから、なお主を賛美しつつ希望を持って生きているのです。

聖書同盟は設立以来、「聖書通読運動」を行ってきましたが、最近では「みことば生活」という表現で私たちの働きの意味を表すことにしています。私たちの生活、生き方、あり方、そのすべてを主のみことばを基礎としていくこと、そのためにも日々聖書から教えられ、主との交わりの中で生きることこそが、「みことば生活」です。ぜひ一緒に「みことば生活」の恵みを日々味わう生活をしたいと思います。

第54回 CSK 中学科教師研修会 対面とオンラインで！



日時：2023年3月11日（土）10:00～11:30、13:00～14:30

講師：中村穰師（飯能の山キリスト教会牧師／逃れの街ミニストリー主催）

テーマ：「神から始まる『新しい自分』を見出すために一主の救いに輝かされて」

コロナ禍を経た新しい時代に、どのように中高生にみことばを伝えることができるのでしょうか。「信じて苦しい人へ—神から始まる『新しい自分』」の著者で、聖望学園中学校・高等学校で聖書を教えておられる中村穰師からともに学びます。

会場：清瀬福音自由教会（西武池袋線清瀬駅から徒歩12分）

オンライン参加者にはZoomでつながっていただき質疑応答などをいたします。ミーティング参加のURLは開催が近づきましたら配信いたします。対面で集う方の人数は定員がありますので、事前の人数調整の際はご協力ください。参加ご希望の方は、申込フォーム<<https://o-bc.net/c>>よりお申込みください。

企画・運営するCSK委員会では、若い人への働きに取り組む日本全国の諸教会にお仕えしたいと願っております。遠くから近くからのご参加を心よりお待ちしております。

なお、参加費は無料です。CSKの働きへの献金の機会としていただければ幸いです。送金先は、【郵便振替: 00160-8-173175 聖書同盟伝道】です。振込用紙の通信欄に「CSK 支援献金」とご明記下さい。

総主事兼 CSK 主事レポート 嶋田博考



新デザインのジュニアみことばの光

新しい年度を迎え、2023年4月号から「ジュニアみことばの光」のデザインが新しくなります。定価330円(税込)から価格改正はありません。

2023年1月号からの「みことばの光」とともに、これで聖書同盟が発行する2つの聖書通読を兼ねたデボーション誌が、白色を基調とした新デザインで揃います。引き続きご愛用いただければ幸いです。

4月23日(月)午後には、みことばの光執筆者講習会を開催します。新年度も若い方から年輩の方まで、多くの方の「みことば生活」にお仕えできるよう励んでまいります。みなさまの新しい生活の第一歩が、みことばとともにありますように。

CSK グループデボーションへのお誘い

CSK グループデボーションが祝福のうちに継続しています。ジュニアみことばの光の執筆者または編集責任者とともにデボーションをします。今回はマルコ8章を読む3月12日(日)です。開催は月に一度、日曜日の午後15:00~15:40です。次の回の日程は、参加した中高生の都合を考慮して決めますが、大体が第2週です。同じ中高生とみことばを分かち合える交わりを、北海道から沖縄まで日本全国に広がっていくようにと願っています。

参加条件：中高生が一人ではなく、同じ教会のどなたか大人の方もオンラインでつないで参加すること。お問い合わせは聖書同盟まで(044-900-8990/info@sujp.org)。

お祈りください 三つのCSK キャンプの働きのために

まず、関西地区CSK キャンプです。3月28日(火)~30日(木)、講師に老松望師(大阪聖書学院常勤講師)をお迎えし、「裸の王に俺はなる!」をテーマに、春キャンプを開催します。昨年夏のキャンプはコロナの感染状況により、残念ながら中止の判断をせざるをえず、洲本青少年教育キャンプ場(兵庫・淡路島)を会場にする春キャンプとしては3年ぶりの開催です。そして、このキャンプをもって、日本同盟基督教団・武庫之荘めぐみ教会の松田吉広師がキャンプアドバイザーを退かれます。20余年にわたる長い期間のご奉仕でした。心から感謝いたします。働きの立ち上げから30余年、今後の関西地区CSK キャンプのために、また協力教会とそれぞれの教会にいるスタッフと中高生のために覚えてお祈りください。

CSK インキャンプとCSK アウトキャンプは合同で、1月22日(日)に「CSK 賛美集会+(プラス)」が開催されました。会場は、千葉縣市川市のOMF ザ・チャペル・オブ・アドレージョン、メッセージは山岡浩之神学生(東京基督教大学4年)でした。礼拝堂での集会の後、教会の敷地で炭火でマッシュマロなどを焼いて楽しみました。同じく合同によるCSK 春キャンプは、3月26日(日)~27日(月)、東京カベナント教会(東京・世田谷区)で開催されます。講師は元CSK 主事で元総主事でもある理事長の稲垣博史師です。

なお、CSK インキャンプとCSK アウトキャンプはそれぞれ、8月7日(月)~11日(金)と8月14日(月)~18日(金)の夏キャンプに向けて、月一度の準備会を重ねています。現在は対面とオンラインを併用しています。教会協力で中高生に福音を伝える3つのCSK キャンプを覚えて、お祈りいただければ幸いです。

2022年度伝道部会計報告(4~12月)

収 入	予 算	実 績	達成率(%)
聖書通読運動支援献金	4,000,000	3,045,016	76.1
CSK 献金	1,700,000	1,475,484	86.8
通読誌発行支援献金	60,000	83,900	139.8
東西アジア SU 支援献	300,000	105,000	35.0
視聴覚活動指定献金	30,000	11,000	36.7
トルコ SU 支援献金	40,000	83,000	207.5
主事支援特別献金	150,000	129,000	86.0
献金収入の合計	6,280,000	4,932,400	78.5
雑収入(受取利息含)	0	1	
収入 合計	6,280,001	4,932,401	78.5
支 出	予 算	実 績	達成率(%)
対外協力費	313,000	550,629	175.9
人件費	3,656,000	2,594,996	70.9
事務管理費	1,564,000	1,171,865	74.9
活動費	640,000	338,136	52.8
その他	107,000	39,569	36.9
支出 合計	6,280,000	4,695,195	74.7
収支差額	0	237,206	

「神との豊かな交わり」再版

しばらく品切れだった「神との豊かな交わり」を再版することになりました。副題に「充実したデボーションを持つために」とあります。主のみことばから神の御思いを受け取り、それに応答して祈り、生きるという「みことば生活」をどのようにしたら、より豊かに送ることができるか、大いに参考になる書です。著者のアラン・ハークネス博士は長年ニュージーランド SU (スクリプチャー・ユニオン) のスタッフを経験し、OMF 宣教師としてシンガポールやマレーシアの神学校で教えてこられた方です。

「みことばの光」の巻末に「日々聖書を読む時のために」を参考にしている方も多いと思いますが、それ以外にも、様々なアプローチがあることが分かります。日々の主との交わりの時をさらに豊かにするためにぜひご一読ください。

(A5 版 183 ページ。定価：本体 1,000 円+消費税。全国のキリスト教書店または Amazon で入手できます。)

トルコでの聖書通読運動のためのお祈りを感謝します

コロナ禍の続く中で、私たちの使命を受け止め、祈り、経済的に支えてくださっている諸教会、皆様様に心から感謝しています。2022 年度もこれまで必要が満たされて活動が守られてきました。

2022 年 10 月に SU 東西アジアコミュニティーグループ・ギャザリングがタイのバンコクで開催され、福田崇理事が参加しましたが、その折にトルコにおける聖書通読運動のための皆様から献金をお渡しすることができました。2023 年 2 月にトルコ南部で起きた未曾有の大地震によって、トルコでの働きがどのような影響を受けたか心配しましたが、トルコにいる関係者は皆無事だとのこと。被災された数多くの方々のために祈ります。なお、トルコでの働きは韓国から派遣されている宣教師たちの協力で続けられていますので、韓国 SU とも連絡を取りつつ、これからも働きのために祈り、支援したいと願っています。続けてトルコでの働きが前進するようにお祈りいただければ幸いです。

発行：一般社団法人 聖書同盟 Scripture Union Japan
 〒214-0013 神奈川県川崎市多摩区登戸新町 432-304
 TEL 044-900-9047(出版部) 044-900-8990(伝道部) FAX 044-900-9048
 E-Mail info@sujp.org ホームページ <http://www.sujp.org/>
 関西地区連絡所：〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘 1-32-8 TEL&FAX 06-6432-7556
 武庫之荘めぐみ教会(松田吉広)
 献金送金先 郵便振替：00160-8-173175 聖書同盟伝道部
 銀行口座：三菱 UFJ 銀行登戸支店(店番 258)普通 1138865 聖書同盟伝道部
 出版物関係送金先 郵便振替：00140-4-57061 聖書同盟出版部